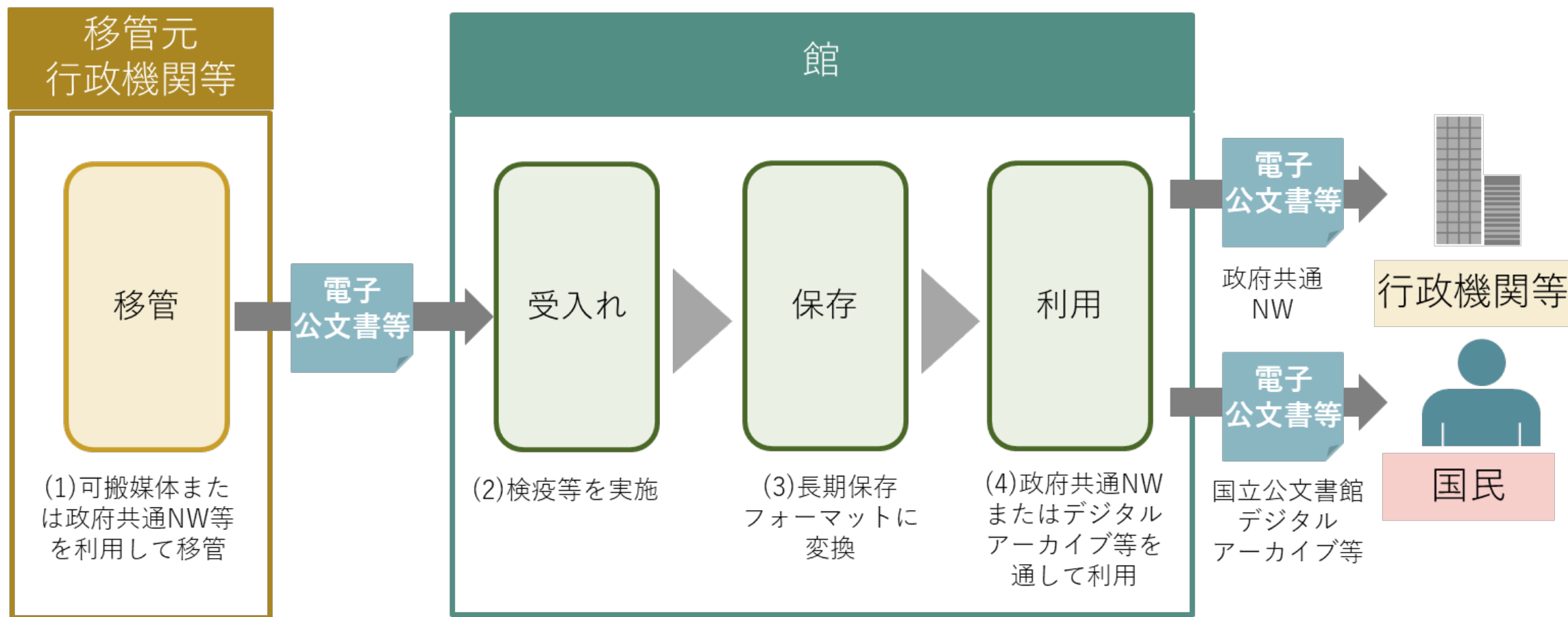
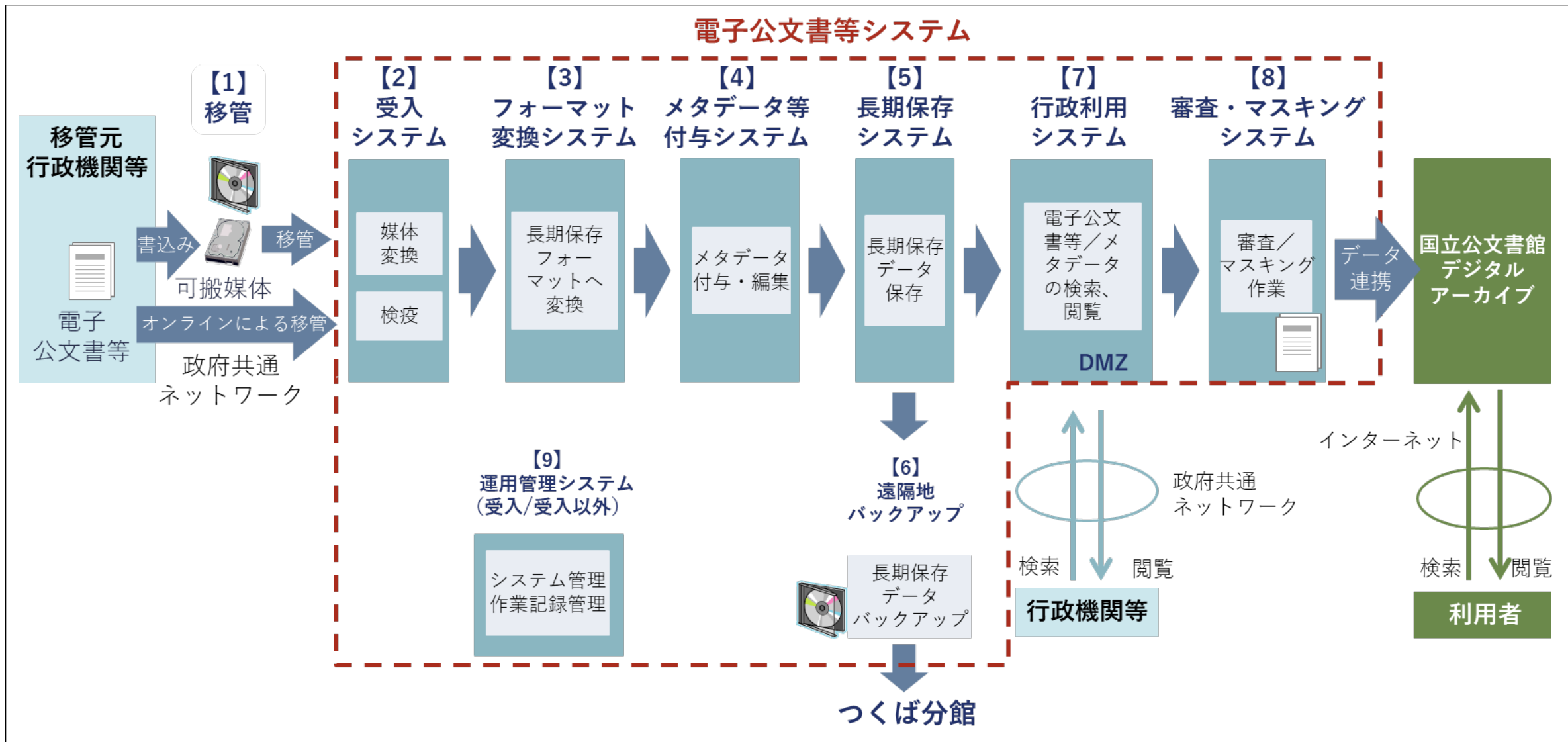




(報告書より) 図 2-1 受入れ等に係る業務の流れ



(報告書より) 図 2-3 電子公文書等システム (現行システム) の全体概要図

2章 現状から抽出された課題

- | | |
|------|---|
| 課題1 | 館のフォーマット対応表を移管元機関に示し、標準的フォーマットによる移管を推進する必要がある。 |
| 課題2 | 標準的フォーマット及び長期保存フォーマットの見直しに係る運用ルールを定め実施する必要がある。 |
| 課題3 | 受入れ時のフォーマットによる保存を、電子公文書等に係る館の保存対策として明文化する必要がある。 |
| 課題4 | 業務上必要な機能を追加する必要がある。 |
| 課題5 | BPRによる業務効率性向上を検討する必要がある。 |
| 課題6 | 業務の特性やコスト、情報セキュリティなどクラウド利用の実現性を確認した上で、システム方式と要件を決定する必要がある。 |
| 課題7 | 規模の拡張性を要件として定義する必要がある。 |
| 課題8 | 性能の拡張性を要件として定義する必要がある。 |
| 課題9 | 技術動向及びバックアップ要件の変化を踏まえ、システム外部に保存する媒体として適切な媒体を選択する必要がある。 |
| 課題10 | 電子ファイルの処理エラーの発生事例に関する技術情報の蓄積と技術レファレンスとしての活用に向けた手順を定める必要がある。 |

専門家からの示唆

- 1 現用から非現用までの連続した管理の実現
 - 移管元行政機関等での文書管理の状況把握
 - 移管元行政機関等に対する技術情報の提供
- 2 利用可能な状態を維持管理する環境の整備
 - 技術情報の蓄積・活用を行う仕組みの導入
 - フォーマット情報を蓄積したデータベースの構築
- 3 技術進歩等を踏まえた運用見直し
 - フォーマット対応表の継続的な更新
 - 保存している電子公文書等の棚卸
 - システム更改サイクルとフォーマット見直しの整合
- 4 受入れ時のオリジナルフォーマットの保存の必要性
 - 将来を見据えたオリジナルフォーマットの保存

海外事例からの示唆

- | | |
|---|----------------------------|
| A | リスク評価を踏まえた受入れフォーマットの見直し |
| B | 受入れ時のオリジナルフォーマットの保存 |
| C | 機械学習を始めとした先進的技術の活用による効率性向上 |
| D | クラウドサービスの利活用による拡張性の確保 |

6章 あるべき姿へ向けて

3章 電子公文書等の適切な保存に向けた対応

1 電子公文書等に係る館の保存対策に対する対応

保存対策のPDCAサイクルの確立

フォーマット対応表の見直し

オリジナルフォーマットの原則保存

4章

2 受入れ等に係る業務の実施に対する対応

受入れ等に係る業務の効率化

フォーマット変換処理結果の確認観点の明確化

電子公文書等のフォーマットに係る技術情報蓄積

5章

3 電子公文書等システムに対する対応

次期システムの更改

外部環境変化を踏まえた機能要件の変更

受入れ等に係る館の保存対策を踏まえた機能改善

(報告書より) 図 2-5 課題と対応の関係

(注) 赤字：調査報告書の章番号を説明者補記

(報告書より) 表 2-5 電子公文書等システムで保存する電子ファイルのフォーマット概況

フォーマット種類		概数	全体に占める割合
標準的フォーマット		5 万件	約 70%
	文書作成(OASYS、一太郎、Word、PDF)	3 万件	
	表計算(Excel)	4 千件	
	プレゼンテーション(PowerPoint)	2 百件	
	画像(JPEG、GIF、TIFF、BMP)	8 千件	
	音声(WAVE)	20 件	
	映像(QuickTime)	数件	
非標準フォーマット		2 万件	約 30%
合計		7 万件	100%

(報告書より) 表 3-3 標準的フォーマットへの追加に係る確認観点

No	項目		補足(確認方法等)
1	移管数	移管実績数は多いか。	移管実績を確認する。
2		移管実績が一過性のものではないか。	移管実績を確認する。
3	標準規格	国際標準、国内標準又はデファクトスタンダードであるか。	
4	環境の用意	いつまでに受け入れ環境を用意すればよいか。	運用の特性上、現用から移管されるまで時間があるため、受入れを行う実施時期を見てシステム更改等での対応計画を整理する。
5	長期保存の方法	適切な長期保存フォーマットが存在するか。	長期保存方法についての検討を行う。
6		長期保存フォーマットへの変換は可能か。	長期保存方法についての検討を行う。

(報告書より) 表 3-11 長期保存フォーマットを見直す際の観点

No	項目
1	標準化、規格化がなされている。
2	広く普及している。
3	技術内容は誰でも知ることができる。
4	オリジナルの情報に戻すことができる(可逆)圧縮か、そうではなく非可逆圧縮か。
5	移管データに対して長期保存フォーマットが品質の面で劣っていない。